

# 世界を見つめ、考えを深め、他者と議論する英語へ

—「新しい学力」を伸ばす教科書 *BIG DIPPER English Communication* の目指す地平—

石川 慎一郎

## 1. 「新しい学力」と正面から向き合う *BIG DIPPER*

学習指導要領の改訂によって、教育現場にも *Society 5.0* に対応する「新しい学力」観が浸透しました。「探究」の導入とも相まって、主体的・対話的で社会に開かれた学び、答えが一つではない課題に向き合い、考え、議論する学び、さらに、課題を発見し解決していく新しい学びが全国の教室で実践されています。

*BIG DIPPER English Communication* (以下、*BD*) の初版は、こうした新しいトレンドを全面的に取り込んだ教科書として、おかげさまで全国の高校で大変なご好評をいただいております。このたびの改訂で、*BD* は、「平易な英語を通して世界を見つめ、考えを深め、他者と議論する」力をつける教科書として更なるパワーアップを果たしました。

## 2. *BD* が大切にしていること

英語を使った対話や議論が成立するには3つの要件が必要です。1つ目は、立場によって意見の分かれる面白いトピックが選ばれていること、2つ目は、トピックに関する多面的な情報が平易な英語から無理なく得られること、そして3つ目は、個々人が自分の意見をもてる「足場架け」がなされていることです。

以下では改訂版 *BD I* から2つの単元を紹介します。1つ目は「ダイナミックプライシング」の単元です。ここでは、サッカーや飛行機のチケットのように、需要を予測して値段を弾力的に変化させる値付けの仕組みについて紹介します。ダイナミックプライシングは、企業にとっては利益を拡大させる重要な手段ですが、その点を伝えるだけでは議論は始まりません。そこで *BD I* では、「ピーク期を避ければ安く買えるのでよい」「同じ商品なのに一部の人だけ安く買うのは不公平」「売れ残りの値下げと同じで問題ない」「正確な需要予測は不可能でメリットはない」といった多様な声を本文内で紹介します。こうした多様な意見に触れれば、生徒は多角的

に問題を検討し、自分の意見を形作っていくことができるでしょう。

2つ目は「アップサイクル」の単元です。古タイヤをバッグに加工して販売するなど、廃棄物を単に再利用するのではなく、付加価値をつけて新たな商品に転換するアップサイクルは、欧米などでは、環境意識の高さを示すアイテムとして人気を博し、高額品もよく売れています。こうしたトピックを教科書で紹介する場合、通例は、目を引く事例を列挙し、その意義を説明し、環境保護の重要性を指摘して終わりとしがちです。しかし、そうした「正論」だけでは、生徒は「私もそれは大事だと思います」以外の意見を出しようがなく、考えも深まりません。こうした状況で無理にディスカッションをさせたとしても、言わば「空っぽのコップを振らせる」ことになってしまい、意味のある対話は生まれません。そこで *BD I* では、「人と違うものが欲しいのでぜひ買いたい」や「SDGs の観点から協力したい」といった肯定意見に加え、「製造コストが高いので売りたいくない」といった商店側の否定的な意見も紹介しています。生徒はアップサイクルの利点・欠点の中から自分の意見を選び取っていきます。そして、自分の意見が決まれば他人の意見も聞きたくなります。ペアやグループ活動で、生徒は教師の支援も得つつ、平易な英語を用い、互いの意見を交換し、対話を通して違いの理由を探っていきます。こうした単元だからこそ、*BD* を使った英語のクラスではアクティブラーニング型の授業が自然に実現します。

改訂版 *BD* が、これからも「新しい学力」を育成する「新しい英語教育」の代表的教材の一つとして広くご使用いただけることを期待しています。

(神戸大学 教授)

Revised *BIG DIPPER English Communication I*

代表著者